

平成 25 年度施策マネジメントシート1 (平成24年度実績の評価)

作成日 平成 25 年 8 月 29 日

総合 計画 体系	政策名	IV ふるさとを愛し豊かな心を育む教育と文化の まちづくり《教育・文化》	施策主管課	社会教育課
			施策統括課長	小川 浩
	施策名	28 生涯スポーツの振興	関係課	長寿障がい福祉課,健康推進課,教育 総務課,学校教育課

1. 施策の目的と指標

目的	①対象(誰、何を対象としているのか)		対象指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	市民	A	人口	人	実績	42,428	41,917	41,159	40,548		
見込							41,159	40,548	40,440	39,949	
実績											
見込											
実績											
見込											
B					実績						
					見込						
					実績						
					見込						
					実績						
					見込						
C				実績							
				見込							
				実績							
				見込							
				実績							
				見込							
②意図(どのような状態にするのか)		成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
生涯を通じて、スポーツや運動を楽しむ。	A	週1回以上(1回30分以上)スポーツや運動をしている市民の割合	%	実績	39.5	37.5	35.5	37.1			
				目標			42.0	43.0	44.0	45.0	
				実績							
				目標							
	B				実績						
					目標						
					実績						
					目標						
C				実績							
				目標							
				実績							
				目標							
D				実績							
				目標							
				実績							
				目標							
成果指標設定の考え方 (成果指標設定の理由)		生涯にわたってスポーツや運動を楽しむ状態とは、週1回(30分以上)スポーツや運動をする状態だと考えた。									
成果指標の測定企画 (実績値の把握方法)		市民アンケート調査で把握(あなたは、週1回以上(1回30分以上)、スポーツや運動をしていますか?または、「あなたは、定期的に運動やスポーツなど、身体を動かしていますか?」・野球などのスポーツもあるが、ウォーキングなども対象・頻度の程度の把握をして、その変化をみる。(例:まったくしていない/年に数回/月1回程度/月2回程度/週1回/週2~3回/ほぼ毎日)(参考:島根県のアンケート選択肢:年1~2日/3か月に1~2日/月に1~3日/週1~2日/週3日以上)・1回あたりの時間を聞く。(例:10分程度/30分程度/1時間以上)									
目標設定とその根拠 (基本計画策定時)		A)週1回30分以上スポーツや運動をしている市民の割合 成り行き値は、これまでの傾向から同程度で推移すると予測する。目標値は、身体教育医学研究所の活動の拡充などにより、現状から5ポイント程度上昇させることとする。									

2. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
① スポーツや運動をする機会の提供	市民	スポーツや運動の機会を確保する。	週1回以上(1回30分以上)スポーツや運動をしている市民の割合	%	実績	39.5	37.5	35.5	37.1		
② スポーツ環境の充実	市民	気軽に親しめるスポーツ環境を提供する。	雲南市のスポーツ環境が整っていると感じる市民の割合	%	実績	41.6	38.3	34.2	38.0		
③ スポーツの仲間づくり	市民	仲間を作って活動する。	体育施設利用者数	人	実績	154,189	166,555	222,337	259,351		
④					実績						
⑤					実績						

3. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	住民(事業所、地域、団体)の役割	行政(市、県、国)の役割
①	●スポーツや運動を楽しむ。	●スポーツや運動の機会の提供・普及促進に努める。
②	A) 施策を取り巻く状況(対象や根拠法令、社会情勢等)は、今後どのように変化するか?(本年度を見越して) ○高齢化が進み、平均自立期間も長く、元気な高齢者は増加している。加えて住民の健康への関心は高まり、スポーツの目的が健康維持に移行していることから、生涯スポーツが重要視されてきている。 ○人口減少等により、特に競技スポーツの団体では、構成員の減少による団体継続への影響が危惧されている。	B) この施策に対して、住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか? ○スポーツ施設の利用促進の観点から、使用料の軽減を求められている。 ○利用者から、体育施設・運動機器の修繕、更新を求められている。

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べた成果水準)	背景・要因
<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	○週1回以上スポーツや運動をしている市民の割合は、県平均36.7%(県政世論調査)と同水準であった。雲南市には市内全域にスポーツ施設が設置されており、また、各種スポーツ団体の活動も盛んである。

平成25年度施策マネジメントシート2(平成24年度実績の評価)

《28 生涯スポーツの振興》

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

時系列での比較(成果水準の推移)	
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	背景・要因 ○週1回以上スポーツや運動をしている市民の割合は、前年度と比較して若干向上した。 健康づくりのためのスポーツの重要性が認識され、特に高齢者を中心にスポーツの習慣化の動きが高い。地域自主組織の活動にも健康づくりに関する教室等が取り込まれるようになった。

5. 施策の振り返り評価

施策の目標達成度(前年度の成果指標値に対する実績値の達成度)	
<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績だった <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった	背景・要因 ○働き盛りの30~50代のスポーツや運動をしている割合が低く、そのため全体的として目標より低い結果となった。

基本事業	取り組んだ事務事業の総括(事務事業貢献度評価:貢献した事務事業、課題が残った事務事業)
① スポーツや運動をする機会の提供	・スポーツ少年団やスポーツ推進委員等の活動を支援し、スポーツの振興を図った。・身体教育医学研究所うんなんの地域運動指導員による各地域でのきめ細かな運動指導も、体を動かすきっかけづくりに効果があったと思われる。・市内6運動施設で積極的に運動指導を行った。
② スポーツ環境の充実	・全国大会の出場補助金を交付し、競技スポーツの振興を図った。(義務教育以外) ・社会教育CNが健康体づくり事業を実施し、学校・地域においてスポーツの啓発・推進に努めた。 ・加茂海洋センターB&Gのプール施設の修繕を行った。
③ スポーツの仲間づくり	・市内では3つの総合型スポーツクラブが活動し、様々な事業展開が図られた。 ・体育協会等の活動を支援し、スポーツの振興を図った。
④	
⑤	

6. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)
施策	○働き盛り世代の日常的な運動を促進する必要がある。 ○体育施設、設備が老朽対策が必要である。 ○スポーツ団体の活動が活性化していく必要がある。 ○旧学校体育施設の利用計画の整理が必要である。	○世代にあった運動メニューや機会の提供を図っていく。 ○体育施設・設備を適正に維持管理していく。 ○スポーツ団体を育成し、活動を引き続き支援していく。
基本事業	① スポーツや運動をする機会の提供	○地域運動教室等のPRを積極的に行い働き盛り世代の参加を促進する。 ○市内運動施設の利用促進を図っていく。 ○スポーツ推進委員により生涯スポーツを振興していく。 ○チャレンジデーを一層充実し、スポーツの習慣化を図
	② スポーツ環境の充実	○体育施設・設備の老朽化が進んでいる。 ○体育施設・設備の計画的な修繕、適正な維持管理を実施していく。
	③ スポーツの仲間づくり	○少子化や高齢化により、スポーツ団体の継続が困難になってきている。 ○総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、各種スポーツ団体の活動を育成、支援していく。
	④	
	⑤	